

## 中村哲医師を支えてきたペシャワール会の 藤田千代子さんの講演会に行ってきました。

11月3日(火) 13:30より市民会館大ホールで行われたペシャワール会の藤田千代子さんの講演会に行ってきました。480名以上の参加者があり、とても盛会でした。

ペシャワール会は、アフガニスタンで35年間にわたって医療活動・灌漑水利事業を行ってきた中村哲医師を1983年から支えてきた会です。ご存知のように中村医師は、昨年(2019年)12月4日に銃撃を受けて亡くなりました。しかし、ペシャワール会は中村医師の遺志を継いで、アフガニスタンの干ばつのために今なお苦しんでいる人々のために、医療事業・灌漑水利事業・農業事業を継続して支援していこうと取り組んでいます。

中村医師は函館に2003年(芸術ホール)と2008年(芸術ホール)の2回いらしています。2回目の時には遺愛アリーナでも、遺愛生全員に向けて講演して下さいました。ペシャワール会を支える函館市民の会の方のお話だと、2020年に函館に来る予定で日程調整していた矢先のことだったそうです。

今回講演して下さいました藤田千代子さんは1990年~2009年まで、中村医師の下で看護師として働いていました。しかし2009年頃から現地の治安悪化のために日本に戻り、ペシャワール会事務局でPMS(平和医療団・日本)支援室長およびPMS総院長(中村哲医師)補佐として現地活動を支えてきた方です。中村医師の御遺体をアフガニスタンから引き取るためにご家族と同行もされました。今回の講演でとても印象深かったのは、中村医師の志の一つに、女子のための学校を作ることが挙げられていたことです。藤田さんによると農村部では女子の学校がないところが多く、青空教室で学んでいた女の子達が銃撃されるという事件があり、中村先生は女子のための学校を必ず作ると約束していたそうです。

ユニセフ報告書(2018年)では、アフガニスタンでは、継続する紛争と国内全土の治安状況の悪化に加え、根深い貧困問題と女の子に対する差別により、学校に通っていない7歳~17歳の子ども数は半数の370万人もいるそうです。



11月3日遺愛伊助並木

その60%を占めるのは女の子で、彼女たちは不利な立場に置かれるだけでなくジェンダーによる差別も受けているそうです。最も影響を受けている県Kandahar、Helmand、Wardak、Paktika、ZabulおよびUruzganの中には、学校に通っていない女の子の割合が85%にのぼる県もあります。避難生活や児童婚もまた、子どもが学校に通う機会に著しく影響を与える要因であるとともに、女性教員の不足、不十分な学校設備、そして紛争の影響を受ける地域では治安上の問題も、教育の提供に影響を及ぼし、子どもたち、特に女子を教室から遠ざける要因になっていると指摘しています。遺愛のクリスマスに捧げられた献金はペシャワール会にも毎年送られています。

2020年11月4日(水)